



2007.6.4

NPO法人 南房総文化財・戦跡保存活用フォーラム

〒294-0036 千葉県館山市館山95 TEL&FAX:0470-22-8271

Eメール npo@internet-ex.com http://www.internet-ex.com/npo/

輝け富崎！コミュニティのつどい

館山市最南端で太平洋を見晴らす富崎地区(布良・相浜)は、古くから水産基地として全国に名を馳せた小さな漁村です。一昨年、「青木繁《海の幸》100年」から布良・相浜を見つめる集いを開催以来、NPOフォーラムは同地区の皆さんとともに地域の歴史・文化を見直して、活性化を図る話し合いや活動をおこなってきました。全国に先駆けて「館山市コミュニティ委員会」が組織されて30年目を迎えるにあたる今年、その原点に立ち返り、少子高齢化のすすんだ同地区で未来を考えるつどいを開催します。

同地区は、日本を代表する水産・震災(津波)・芸術などの歴史・文化を学べる地として、スタディツアーのコースの人氣が高まっています。昨秋には、会員制旅行倶楽部JR「大人の休日」ツアーのガイドをおこないました。地域の温かいおもてなしもあり、新しい「交流観光」が注目され始めています。

6月17日(日) 9:45～受付 富崎小学校体育館にて 参加費無料

10:00～11:30 フィールドワーク:ゆかりの地めぐり

13:00～16:00 富崎小学校体育館にて、まちづくり講演会とワークショップ

「地域の宝！創年と子ども」福留強氏(全国生涯学習まちづくり協会理事長)

スタッフは、当日は8:30から富崎小学校にて準備があります。

終了後、富崎館にてNPOとコミュニティ委員会の交流会(事前予約要・参加費2,500円)。

お手伝いいただける方は、ご連絡ください。

布良を描いた画家 青木繁と中村彝(つね)

明治 38(1905)年、18歳で結核治療のため北条町湊(現館山市)に静養中、八幡海岸でスケッチをしながら画家を志す。その後、新宿中村屋の相馬愛蔵・黒光夫婦に支援され、画家として大成。ロシアの盲目詩人を描いたエロシェンコ氏の像は国の重要文化財となる。青木繁が「海の幸」を描いた6年後の明治 43(1910)年、同じ布良で「海辺の村(白壁の家)」を製作。一方、新宿中村屋で奉公していた長束實は、昭和初期に館山に出店し、相馬から暖簾分けを許され館山中村屋を開業。

100年にわたる中村屋と中村彝の縁は、時を超えて現在、新たなつながりが結ばれた。館山中村屋(長束清實社長)は地域の文化振興の一助として、「海辺の村(白壁の家)」の複製画を製作し、駅前の本店2階喫茶部に展示した。すばらしい「まちかどミニギャラリー」の誕生である。

日米の架け橋となったアワビ漁師と画家～小谷源之助・仲治郎と小圃千浦の足跡をたどる

明治期に渡米しアワビ事業を成功させた房総の先人たちを顕彰する日米交流を、「戦後 60年」以降取り組んできました。今回、米国アワビ事業の先駆者小谷源之助の末子であるユージン・コダニ氏とその娘キミさんの来日に合わせ、講演会を開催します。

ユージン夫人の父である小圃千浦(オハチウラ)は、戦前からヨセミテ公園(現在は世界遺産)を描き、戦時中は日系人収容所内で美術学校をつくり、戦前・戦後を通じてカリフォルニア大学バークレー校でも教鞭をとり、美術界で大きな功績をのこしました。孫にあたるキミさんは、ヨセミテ協会の理事として、祖父の業績を後世に伝える仕事をしています。

6月19日(火) 12:30開場 たてやま夕日海岸ホテル 参加費 1,000円(資料代・ソフトドリンクつき)

13:00～15:00 講演 「小谷源之助・仲治郎兄弟の功績」 山口正明氏

講演 「小圃千浦(オハチウラ)の生涯と芸術」 キミ・オバタ・ヒル氏

終了後、かんたんなティパーティを準備します。

映画『赤い鯨と白い蛇』上映に向けて

かねてよりお伝えしていましたが、この映画を活用しながら平和研修や戦跡の保存運動を展開したいと願っていたところ、当NPOの理念に共感して下さった配給元のクリーク・アンド・リバー社から「上映配給権」をいただくことになりました。秋には、せんぼん監督をお招きし、上映&講演会を開催します。

上映委員会を開きますので、ご出席ください。

6月 5日(火) 13:30 ~ 15:30 上映委員会(館山市コミュニティセンター)

7月14日(土) 13:30 ~ 16:30 上映委員会向け試写会(館山市コミュニティセンター)

10月14日(日) PM(詳細未定) 上映会&監督講演会(南総文化ホール)

県立千葉女子高校の戦跡見学 6月22日(金) 8:30 豊津ホール集合 終了予定15:30頃

4月の四街道高校につづいて、千葉女子高校8クラス(320名)が戦跡見学をおこないます。午前・午後を4クラスずつ入れ替えて、劇団員の火(伊東万里子主宰)による人形劇「八犬伝」のワークショップとコラボレーションです。多くのスタッフが必要ですので、お手伝いいただける方は、ご連絡ください。

安房平和フェスティバル2007 ... 順次、関連行事が確定次第お知らせします。

反核フェスティバル 6月29日(金)~7月1日(日) 館山市コミュニティセンター

安房平和のための美術展 7月28日(土)~8月5日(日) とみうら枇杷倶楽部

南房総平和映画祭 8月18日(土)~19日(日) 南総文化ホール

三芳戦跡写真展(仮称) 8月頃を検討中

第11回戦争遺跡保存全国シンポジウム東京大会

今夏、初めての東京大会が開催されます。詳細内容は実行委員会にて検討中ですが、第一報をお知らせします。テーマは、「戦争の記憶と今日の歴史認識 - 東京の戦争遺跡を通して歴史と平和を考える -」。

8月17日(金) PM プレ・フィールドワーク

18日(土)~19日(日) 本大会・分科会・交流会

20日(月) 終日 フィールドワーク

小高薫郎記念館、白亜の洋館よみがえる! ...ペンキ塗装が無事終了。

潮風にさらされて傷んでいた小高記念館、昨夏の開館以来、NPOメンバー有志の奉仕作業により外壁ペンキ塗装の修繕を繰り返してきましたが、このたび、裏面の塗装が終了しました。最初の頃は不安定な梯子での作業でしたが、今回は白幡工業のご厚意により足場を組んでの作業となりました。大活躍して下さった酒井康好さん、富樫研二さん、八田洋光さん、清野守正さん、渡辺正則さん、雨二モ負ケズ風二モ負ケズ、危険なお仕事でのご貢献を本当にありがとうございました。

今回は塗装補修でしたが、震災前の建物ですから、内壁の痛みを本格的に修繕していくためには、今後、トラスト基金の検討なども視野に入れ、幅広いご助言を皆さんにもお願いいたします。



<ヘリテージングほど面白い観光はない>

... 2007.5.13 東京新聞特集より抜粋 文:阿曾村孝雄(ヘリテージング研究所所長) ...

ヘリテージングとは、日本の近代遺産を楽しむ新しい観光レジャーのことです。建築史や郷土史、あるいは産業考古学などの学術研究と違い、古い建物の「なつかしさ」「めずらしさ」「うつくしさ」といった情緒的な味わいを楽しむ観光散歩なのです。

日本史では、明治維新から大正、昭和戦前までを「近代」といいますが、ヘリテージングは、この近代と呼ばれる約70年の間に造られた建築や構造物、すなわち近代の「生活遺産と産業遺産(ヘリテージ)」、のすべてを楽しむという新しいタイプの観光です。(中略)

「うつくしい明治遺産」「めずらしい大正遺産」「なつかしい昭和遺産」。古すぎず新しすぎず日本の近代という時代が残した歴史遺産に親しみ、そこに伝わる地域や人間の物語も味わう知的で健康的な観光レジャーが「ヘリテージング」なのです。